ミャンマーでの哺乳類化石発掘調査

鏑本武久*・鈴木寿志**・江木直子*・高井正成*・茂原信生*

Takehisa Tsubamoto*, Hisashi Suzuki**, Naoko Egi*, Masanaru Takai* and
Nobuo Shigehara*: Excavation of mammalian fossils in Myanmar

* 京都大学霊長類研究所 Primate Research Institute, Kyoto University, Inuyama 484-8506, Japan. ** (有)地質調査グループ・ジオテック, 地質部 Geotec, Ltd., Nishinotoin Sanjosagaru Ryusuicho 71-103, Nakagyo-ku, Kyoto 604-8242, Japan

2001年4月25日受付. 2001年8月10日受理.

第1図. ミャンマー連邦およびポンダウン地域の位置図. ポンダウン地域では大きく分けて三ヶ所の化石産地が知られている.

時代	地層区分	産出化石
始新統	ヤウ層 (Yaw Formation)	<i>Discocyclus sella</i> , <i>Operculina</i> sp. cf. <i>O. canalifera</i> , <i>Velates perversus</i> , <i>Nummulites yawensis</i> → 上部始新統
	ポンダウン層 (Pondaung Formation)	★ 哺乳類化石
	"上部層"	
	"下部層"	貝化石
	タビン層 (Tabyin Formation)	<i>Nummulites acutus</i> → 中部始新統

第2図. ポンダウン層とその上下の模式層序. ポンダウン層上部から哺乳類化石が産出する. ポンダウン層の上位・下位の地層は海成層であり, 有孔虫などの示準化石を産出することから, それぞれ上部始新統および中部始新統とされている. ポンダウン層上部は陸成層であるが, 上下層との間に大きな時間的間隙はないこと, および化石哺乳類相の比較から, 中部始新統上部 (upper middle Eocene) に対比されている.

我々は1998年以来, ミャンマー中央部に分布する中部始新統上部のポンダウン層の哺乳類化石発掘調査を続けている. ここでは, この調査と発掘採集した哺乳類化石について紹介する. ポンダウン層からは, 多くの陸生哺乳類化石を産出することが, 1916年から知られていた. 特に, 20世紀前半に報告された二種類の霊長類化石は, 最古の真猿類とみなされており (Pilgrim, 1927; Colbert, 1937), 現在も真猿類の起源という観点で, 霊長類学者・人類学者の注目を集めている. しかし, その哺乳類相の研究は, 1938年以来さまざまな理由により殆ど行われていなかった. 1997年, ミャンマーの研究者らがポンダウン層の化石発掘調査を再開し, 原始的な真猿類化石を含む多数の哺乳類化石を発見した. その後も, アメリカ, フランス, 日本の研究者らが発掘調査を行っている. これまでの3回の発掘調査で, 我々も多くの哺乳類化石を採集した. 現在はそれらの化石の記載およびポンダウン哺乳類相の解析を行っている. 現在までに, 約20属の哺乳類の存在を確認している. 今後も, 真猿類の起源・進化の解明と, 新生代前半の東アジアの哺乳類の進化の解明に向けて, 調査を続けていく.

謝辞: 調査にあたって全面的援助を頂いたミャンマー連邦国防軍戦略技術局のThan Tun大佐, Bo Bo少佐ほか関係者一同に深く感謝いたします. 査読者である北海道大学の箕浦名知男助教授ならびに編集委員である金沢大学の長谷川 卓博士には適切なご指摘とご助言を頂きました. なお, 本研究には文部省科学研究費 (課題番号09041161, 代表: 茂原信生) およびCOE 科学研究費 (課題番号09041161, 代表: 竹中 修) を使用した.

文 献

- Colbert, E.H., 1937: A new primate from the upper Eocene Pondaung Formation of Burma. *Amer. Mus. Novit.*, 951, p. 1-18.
Pilgrim, G.E., 1927: A *Sivapithecus* plate and other primate fossils from India. *Palaeontol. Indica* (NS), 14, p. 1-26, pl. 1.

第3図. 化石採集の様子. シャガんで大小の化石を丹念に探す. このような化石の見つかることを, 現地では, チッチャウン (Kyitchaung) と呼んでいる.

第4図. 化石産出状況. 化石は雨期に地層から洗い流され、写真のような状態で地面に転がっている。化石表面は土や泥で汚れているため、礫などと判別するのが困難な場合が多い。矢印で示したものが哺乳類の歯の化石。

第5図. 化石の写真. A, *Amphipithecus* (霊長目・アンフィピテクス科) の右上顎 (第四小白歯の一部と第一～第三大白歯が残っている). B, “*Pterodon*” (肉歯目・ヒエノドン科) の右下顎 (第二～第四小白歯と第一大臼歯の一部が残っている). C, *Anthracotherium* (偶蹄目・アントラコテリウム科) の右上顎 (第一～第三大白歯が残っている). アントラコテリウム類はボンダウン層で最も数多く見つかる哺乳類化石. D, “*Anthracokeryx*” (偶蹄目・アントラコテリウム科) の右上顎 (第三・第四小白歯と第一～第三大白歯が残っている). E, *Bunobrontops* (奇蹄目・プロントテリウム科) の左上顎の第三大白歯. F, *Paramynodon* (奇蹄目・アミノドン科) の右下顎 (第三小白歯と第一～第三大白歯が残っている: 未成熟の個体であり、永久歯が完全には萌出し終わっていない). スケールの1目盛りは1mm.